

令和3年2月9日

# 二宮町教育委員会議録

( 定例会・臨時会 )

二宮町教育委員会

1 開会時間 9時30分

2 閉会時間 11時50分

3 教育長名 森 英夫

4 署名委員 野谷 悦

5 教育長及び委員

出欠席	職名	氏名
○	教育長	森 英夫
×	教育委員 教育長職務代理者	山内 みどり
○	教育委員	岡野 敏彦
○	教育委員	渡辺 優子
○	教育委員	野谷 悦

6 出席者氏名

教育部長	黒石 徳子
教育総務課長	下條 博史
生涯学習課長	小笠原 純二
教育総務課長代理	田中 明夫
教育総務課指導班長	境野 朋美
教育総務課教育総務班長	岩崎 稔史
教育総務課教育総務班主任主事	渡邊 一充

7 傍聴者 10名

8 調整者 教育総務課教育総務班主任主事 渡邊 一充

## 1 開会宣言

(教育長) 令和2年度2月定例教育委員会議を開催します。

## 2 署名委員の氏名

野谷委員を指名する。

## 3 教育長事務報告

(教育長) 教育長事務報告を資料に基づいて行う。

(教育部長) 2月政策会議報告を資料に基づいて行う

(各課長) 各課の事務報告・事業予定について資料に基づいて説明する。

- (渡辺委員) 小学校入学準備説明会はレターパックで資料を送り、ホームページで補足されるということですが、新一年生の入学準備は細かい部分も多いので詳細は学校に問い合わせるといっていいのでしょうか。
- (教育総務課長) 学校で取り組みが分かれています。一色小学校は電話での個別対応になります。二宮小学校は、校長先生が資料を説明した動画をホームページに公開していません。本来であれば、中学校ではZOOMによるオンライン開催をしていたので、同様にできれば良かったのですが、まだ就学前のご家庭に個別に連絡することが難しかったことからこのような対応になりました。
- (教育長) 特に二宮小学校の動画については項目別に健康診断のこと、書類の書き方等、わかりにくいところを丁寧に説明している内容になっていました。山西小学校はホームページで色々な学用品の写真や名前の書き方・付け方、校長先生のお話等を掲載していました。一色小学校もホームページへ校長先生から保護者宛てのメッセージを掲載しています。
- (渡辺委員) 山西小学校の児童でも、二宮小学校の説明動画を参考にして良いのでしょうか。初めてのお子さんが一年生だと、集まる機会がなくていろんな不安があるし、動画配信があると助かります。毎年、入学説明会では地図上で自分の家にマルをつけて登校班の編制や地区委員の人とのやりとりをしていましたが今年はなく、登校班はどうなるのかと気にされる方がいます。新しい班長さんが新一年生の家庭を廻るので、それでカバーできるのかなと思っているのですが、その辺りはどうなるのでしょうか。
- (教育指導班長) 二宮小学校の動画では、登校班の紙を持って各家庭を廻ります、と説明していました。山西小学校、一色小学校はどのようにお知らせしているのかはこちらでも把握できてはいないのですが、おそらく学校と校外委員さんで登校班を編制して、新班長さんが各家庭を廻る形になると思うのですが、学校に確認をしておきたいと思います。
- (渡辺委員) 小・中学校の卒業遠足は緊急事態宣言が延長になった為やむなく一旦中止となったわけですが、中学校は3月9日以降に延期で、小中学校ともに緊急事態宣言が明

けて卒業式までの間になにかしらの催しを検討中ということですか。

- （教育総務課長） 卒業式後でも3月一杯でできる日を探そうと各校考えています。中学校は15日で考えていたようですが、それだと県外に進学する生徒が転出してしまった後になる為、できるだけ多くの生徒が地元に残っている間にやってあげたいという事で9日にしたようです。
- （教育長） 今は各学校で卒業遠足、修学旅行に代わるものを検討中しています。緊急事態宣言がまだどうなるか分かりませんが、解除されたとしても行動上の注意点等の課題も多く、試行錯誤という事になります。
- （岡野委員） 入学準備説明会ですが、ここは手厚く寄り添っていただきたいと思います。学校ごとに共通している部分が多分にあるでしょうから、動画配信はお互いにリンクを貼り、役割分担をすれば効率的にできると思います。そういう部分がホームページやインターネット利活用が一番のメリットだと思います。学校が休校になった際にはオンライン授業を先生方が工夫してやって下さいましたね。場合によってはそれも共用できるものがあるのではないのでしょうか。登校班のように学校毎に違う部分は各校での対応になるとと思いますが、うちの学校はこう、というのではなく全校が連携すべきだと思います。共用できる部分がまずどこかを考えてもらえると良いと思います。もう一点、2月3日に英語の教育研修があったとのことですが、小中一貫の重点項目の一つが英語教育ですが、それ以外の教科でも学校を越えた交流は進んでいるのでしょうか。
- （教育総務課長代理） 学校毎に研究テーマを設定して取り組んでいます。5校連携の取り組みは、本格的には来年度から進めていきますが、校長先生方の要望により小中一貫を含めて吉新先生が入っての研究授業を前倒で1月から各校行っています。
- （教育長） 教科については、道徳、算数・数学、社会、それぞれの教科でできることから始めていきますが、令和3年度からは新年度の始めからスムーズに実施できるように、3学期のうちから各校研究を重ねています。
- （渡辺委員） 1月確か17か18日付で「学校生活全般における体罰の実態把握に関する調査」、その後の週には全家庭対象の学校に対するアンケートが配付されました。提出方法は体罰調査については対象児童とそれを目撃した児童のみが職員室前のポストに入れに行く、学校に対するアンケートは子どもと親と一緒に答えたものを全児童が担任に提出するという形で行われています。体罰調査の提出は子どもにとってはシビアなことだと思います。体罰はあってはならないことですが、もしあった場合に、当事者の子どもにとって、一部の児童だけが校内のポストに入れに行くという方法は心理的な負担が大きいと思います。また、書いても出せないこともあるかもしれません。昨年度の報告では対象児童は僅かだったと思いますが、だからこそポスト投函できるよう教育委員会直送の封筒を同封するとか、提出しやすいように全児童提出にするとか、昨年も同様の発言をしたと思うので、来年度に向けて改善を検討いただければと思います。先ほどいじめの問題について、積極的に認知して積極的に解決していこう、というお話がありました。体罰

といじめは根本的なところは近いと思うので、提出しやすい方法にすることでいじめについて悩みを持っている児童が書いてくれやすい状況になるのかとも思います。

- （教育総務課長） 昨年も指摘していただいていたにもかかわらず、改善できておらず申し訳ありません。ポストの場所については人目につかない所だのごみが入っているという話も聞きますし、かといって職員室前は確かに出しづらと思います。まずは、思っていることは書いて出しても良い、という気持ちにすることがスタートかと思います。そのように話している先生もいるかもしれませんが、学校としてどのようにしているかを改めて確認したいと思います。
- （渡辺委員） 先生とコミュニケーションが取れている児童ならいいですが、書きたくても書けないというケースもあると思います。
- （教育長） 全県的な話なので、他の市町村はどうなっているのか研究しておきたいと思っています。

#### 4 付議事項

##### （1）議案第21号 二宮町図書館規則の一部を改正する規則について

（生涯学習課長） 二宮町図書館規則の一部を改正する規則について資料に基づいて説明

- （渡辺委員） 視聴覚資料について、図書館内だけで見られるもの、貸し出せるものが分かれている点は変わらず、今回の変更点は貸出し日数だけという事ですね。
- （生涯学習課長） そのとおりです。DVDは著作権の問題もあり、館内のみで視聴するタイプと貸し出し可能なものがあります。館内用のものは規約上貸し出ができません。

（教育長） 委員に議案第21号について諮る。

委員全員賛成により、議案第21号は承認される。

#### 5 報告・協議事項

##### （1）小中一貫教育の今後のあり方について

（教育部長） 小中一貫教育の今後のあり方について資料に基づいて説明。

- （野谷委員） 3点あります。1点目。町の他施設との関連のなかで小中学校の配置を考えていかなければならないのは当然のことですが、子ども達の通学の問題、地域との関係など様々な条件がありますので、最終的に町議会の了解は取れないとしても、他の公共施設の配置に先立って教育委員会としての希望を示すというのは責務だと思います。2点目は意見交換会に参加した中で、小学校の小規模化だけでなく中学校の小規模化も問題になっていく、という問題が浮かび上がってきました。私的な試算ではありますが、2030年頃には二宮西中学校は2学級となる見込みです。生徒数によってクラス数が決まって

しまうので、それにより先生の数が減り専門の教科の先生がいなくなってしまうという厳しい状況になり、部活動にも影響が出ることが想定されるので中学校の小規模化についても検討しなければいけません。3点目は一色小学校の問題です。一つは単級化をどうするかということと、もう一つは一色・緑が丘地区の子が二宮中のなかで少数派になるということです。後者は学区の編制等があつて難しい問題もあると思いますが、中期目標として解決策を考えていくべきことだと思います。単級化については学区の自由化、特認校などの対応策がありますが、どれも決め手に欠けます。小規模校化の弊害を少しでもなくす為に、教員を一人でも増員できないか、難しいのであれば一色小学校の強みを生かす取組みをするべきだと思います。例えば一色小学校は町のコミュニティ・スクールのパイオニア的存在であり、地域再生協議会もあります。専門の委員を入れる予算は僅かながらついています。それと同時に、学校側のコーディネーターを町予算で配置できないか、という提案です。

- （教育長） 教育委員会として計画を出すのは責務であるという事、昨年度の意見交換会と、私達が提案した計画の中には中学校への視点が欠けていた事を反省しています。野谷委員からは、中学生の発達段階を考えると大きな集団で部活をし、多くの人の中で揉まれるという経験が必要不可欠で、小規模よりも中・大規模の人数の環境が重要だと言われました。そうすると、施設一体型の小中一貫は避けて通れないと思います。小学校と中学校を揃えるか、中学校と中学校を揃えるか、小学校と中学校を揃えるかなどまだまだ様々なケースを考える必要があるという事を示唆していただいたように思います。コミュニティ・スクールの連携、コーディネーターについては各校配置しているのですが中々機能していないところもありますので、そういった部分の見直し、常勤化も視野に入れながら検討したいと思います。

○（岡野委員） 小中一貫がそもそもどういう目的だったかを再認識し、みんなでベクトルを合わせる事が必要だと思います。大きな部分で言うと、世間で言う中一ギャップの解消があります。中一ギャップとは何かというと、教科書の内容が小学校の具体的なものから、中学校ではいきなり抽象化・一般化なものになって、思考のジャンプアップが必要になってきます。具体的なところから抽象的なところにいかにジャンプできるかが一番肝心なところだと思います。これからの社会ニーズは、ものごとをざっくりと捕らえ抽象化する力が求められてきます。それに順応する教育の仕組みを作ることが大きな目標だと思います。もう一つは、子どもたちに先の世界を見せてやることです。私は子どもたちに先の世界を見せてやるのがすごく大事な事だと思っているんです。今、小学校6年生と中学校1年生はお互いが全く別のところで生活しています。社会に出ると、そこには常に上には上がいるんです。先にはさらに先があるということをしつかりと見せてやることが大切だと思います。究極的には施設一体型で、同じ空間に最大9歳差の子ども達が一緒に生活するというのがものすごく大切なことの一つで、もつというとその先まで見据えた中で教育システムを作り上げていく事が必要だと思います。小中の繋ぎを良くす

ること、長いスパンを子どもたちに見せてやること、この二つが小中一貫のポイントです。学区再編に関してよく学校の人数の話が出ますが、それがどういう背景でその人数なのか、我々独自の適正規模の考えを持つ必要があると思います。単に人数を平準化するだけでなく、我々が目指す教育のためには、これくらいの規模が必要だという考えを持つ事が大事なのではと思います。

それぞれの教科の適正人数は千差万別で、算数と音楽と体育では適正人数は違います。それにきちんと順応できるような仕組みをいかに作っていくかがポイントだと思います。二宮町の適正規模はこうである、というビジョンを持って、そこに少しでも近づけていけるように学区を編制していく、というシナリオが必要だと感じます。

そのビジョンのもとに学区編制だとか学校選択性などが入っていくのかなと思います。今後は子ども達の人数が少なくなっていくので、どうしても規模を確保するのが難しくなってきます。その為に小中一貫をつくるとか、あるいは町外から教育の魅力で来てもらう為に、二宮町の教育についての考えを発信する事が必要になってくると思います。社会人の立場として見て、子どもには知識や経験をしっかり身につけてもらいたいと常々思っています。苦しいことがあった時に基礎体力がないと乗り越えていけないと思いますし、今の時代は一つのことだけをやっていけばいいわけではなく、自分の仕事がいなくなるかわからない危機感と背中合わせで戦っています。基礎体力とそれを応用する力を定着させる仕組みとして、小中一貫や吉新先生の授業があると思います。教育のビジョンを丁寧に組み立てていくことがこの取組みで必要なことだと思うので、それを皆と一つ一つ共有しながら進めていければいいと思っています。

- （教育長） 吉新先生の取組みでは思考力、判断力、主体的・対話的で深い学び、というアクティブラーニングを進めています。今回の吉新先生の授業では、それを授業のなかでどうやって子どもに培わせるかを研究しています。山西小で今年度、まだ始まったばかりの研究ですが、子ども達がすごく変化をしていると先生方から聞いています。小学校だけで止まってはいけないと吉新先生がしきりに言われています。だからこそ子どもが自分自身の意見を言う、言えない子をサポートする、そして自分の考えを間違っても表現することが大切、ということを小中一貫の9年間で進めていく必要があると思います。知識はiPadで調べることができますが、自分の思いを伝え、相手の思いを汲みとることが大切で、自分の意見が通らなかったとしてもそこで揉めるのではなく折り合いをつけられるような子に育てる。その中で、川崎の小学校では不登校がなくなった例があったそうです。二宮町ではまだまだ不登校が減りません。誰一人見捨てない、取り残さないということをお大切に子ども達の教育に当たっていかなくてはいけないと思います。ただ、ネックなのが人口減少で、適正規模はどうするかというのが大きな課題であり、一色小学校については早々に対応しなくてはなりません。特認校の話も学校長としていますが、町全体から来るとなると通学については不安があります。学区に隣接しているところから一色小学校に通っても良いということになれば学区の弾力化も視野に入れたと思います。

山西小学校についても早晚同じことが言えます。山西小学校、一色小学校の隣接区域だけでなく、二宮小学校も規模を考えると施設のキャパシティの許容範囲もあるので、そこも含めて皆さんと協議しながら早々に手を打てるような方針を令和3年度で出して、4年度から新たな方向で進めていければ良いと思います。また、勉強会等を重ねて検討して頂ければありがたいです。

- （渡辺委員） 小中一貫について、学校の規模や配置等の理論的な部分と本質的な部分など議論は様々ですが、今年度は中身の部分に手が入ってきて、進化を感じることができました。今後、令和3年度に計画の取りまとめをしていくわけですが、町づくり全体の部分を見て計画を作っていくとなると、各担当課との横の連携をお願いしたいことと、小中一貫教育の中身について学校の先生の意識も変わってきているところに期待をしています。中学校の組み合わせについては野谷委員の言うように、規模を考えると町内には中学1つと小学2つか3つ、という柔軟な考え方ができるかもしれません。岡野委員からあった、適正規模というのも当初は出てこなかった考えですし、だんだん議論が深まっていっている印象があります。これまで出てきた意見を照らしあわせながら最終的な計画の中身に持っていければ良いと思いますので、引き続きこまめに学習会などを実施しながら作り上げていきたいと思います。

## （2）その他

### － 次回教育委員会予定 －

（教育総務班長） 次回教育委員会議の日程及び出席を要する主な行事について説明。

### － 傍聴者退席 －

## 4 付議事項

### （4）議案第20号 令和2年度二宮町一般会計補正予算（案）について

### － 非公開 －

## 5 報告・協議事項

### （2）令和3年度二宮町教育委員会基本方針（案）について

### － 非公開 －

11時50分 閉会